

第10回理事会 第5回評議員会の報告

- 日時：2003年2月15日（土） 10:00～15:00
- 会場：岡山市奉還町一丁目7-7 オルガ5F 会議室スカーレット
- △：意見 ⇒：意見への回答又は確認事項

1 1月単月、1月末累計の決算と会員状況について

- ・ 1月購入の液晶プロジェクターを資産計上したこと、収支は、収入で、会費収入・講座収入が予算超過、日本環境教育学会より10万円入金があったこと、支出では会議費、通信交通費が予算を上回って推移していること、当期収支では1,563,070円の黒字であること。
- ・ 1月末会員状況：個人80、団体26、法人162 計268 で過去最高。

2 部会などの報告

- ・ 環境家計簿運動運営PJ：登録が114名で新年申込み27名。現在のデータ報告者は66名。
- ・ ホタル連絡会：9団体12名で連絡会を開催、各会の実情交流や交流会テーマを検討し、7/20「ホタル交流会」は鏡野町の施設で、関係者に限らず広く呼びかける。倉敷市環境調整課がホタル連絡会に今後参加することになった。
- ・ 講座部会：リーダー養成講座・テーマ別講座は、受講者を広げるための広報や日程、時間帯の工夫を行うこと。エコファミリー講座は参加確保に重点を置いてきた結果学習の面が弱まり、また子どもの人数が多すぎるなど問題が浮上し、学習の度合いを強め、人数も50～60名程度にすること。

3 事業報告

市民環境リーダー養成講座が終了した。講座欠席者で終了できない方にも資料を送る。論議の中で、受講者の活動の場の提供準備が必要、社会的な問題に関する講座も必要、自然科学的な基礎知識が前提、主婦が多い現状では難しい内容だが講義を工夫しようなどの意見があり次年度企画に生かすことを確認した。

4 その他報告

- ・ 1/23広島で中国地区環境パートナーシップづくりへの意見交換会が開催されたが、環境省の構想提示はなく「セブンイレブン緑の基金」からの試案が下地と言う状況だった。岡山での意見交換会が次に予定されている。状況を見まもる。
- ・ 日本環境教育学会からパートナーシップ事業での調査の報告原案が送られた。

5 今後の企画について以下の通り確認した。

- ・ 企業セミナー（企業部会の報告を含めて）：岡山県産業廃棄物処理税（4月よりスタート）の学習を3月12日で企画。
- ・ 02年度環境活動団体交流会の企画（実行委員会の報告を含めて）：3/8の開催で、“環境問題でどんな岡山像を持って活動するか”を交流のテーマとすることになった。
- ・ 03年度アースデーの企画（実行委員会の報告を含めて）：「瀬戸内海の自然を考えよう」をテーマに、笠岡湾でカブトガニの保存や笠岡湾周辺での現地の取り組みを学ぶ企画。笠岡市環境課の協力。学習の時間帯には子どもの企画を用意する。「瀬戸内海と環境問題」は奥田先生に講師をしていただく。

6 第5回助成を決定した。

第5回助成の応募16団体。4団体が調査研究12団体が活動の分野で、申請総額2,168,000円のところ1,502,000円の助成とした。審査する際に調査を要するケースが増える傾向があり、次回より日程の検討をする。

7 03年度の講座と総会、理事会、評議員会の年間日程を確認しました。

8 後援依頼について

03/04/19「地球環境&平和・ワンデイワークショップ」（主催：ネットワーク「地球村」吉備倉敷）企画について収支内容を確認した上で営利性がないことを確認して理事長判断とすることになった。

9 寄付の取り扱いについて

衣笠家より会議の冒頭寄付の贈呈（4,628,000円）があり、「衣笠基金」として寄付の趣旨を生かす事業を検討すること、別口座で預金管理することを決定した。

